

淀川水系流域委員会
今後の委員会水位管理WGについて (委員長との打合せ概要)

日 時：2002年7月16日(火) 17:00～

出席者：芦田委員長、委員会水位管理WGメンバー(柘屋委員リーダー、江頭委員)、
庶務(MRI新田、柴崎、桐畑)

下流域における水位管理について

芦田委員長

- ・ 琵琶湖の水位管理については、6月15日にむけてなだらかに水位を下げている(1日1cm程度)のが現状だが、これを毎日一定量ではなく何度かに分けて、通常より多く瀬田の洗堰から放流することが考えられる。これによって、下流部では中小洪水に匹敵する流量が流れることになり淀川の高水敷に水を乗せるまでにはいかないかもしれないが、砂洲やワンドが冠水し、なだらかに水が引いていく状況が出現するものと考えられる。5月6月の魚類の産卵期にこのような水位管理を行うことは重要である。
- ・ 下流での洪水の発生などの状況を考慮しながら、放流の量を検討する必要がある。

琵琶湖の水位について

柘屋リーダー

- ・ 琵琶湖の水位については、琵琶湖総合開発以降にどのように変化したのかが分かりにくいと感じている。昭和20年代以前の水位変動のパターンも含めて考える必要がある。年代ごとの水位変動のパターンをつかみたい。

芦田委員長

- ・ 河川環境管理財団で、淀川の流量と砂洲やワンドの冠水の間関係を調べているところなので、その結果を活用しても良いのではと思っている。
- ・ 環境のための水位・水量変動を志向すると、利水安全度は低下するため、人が使うための水の確保との兼ねあいは難しい。

江頭委員

- ・ 天ヶ瀬ダムや木津川上流のダムの管理についても検討する必要がある。

以上